富山のデザイン情報誌

offer

http://www.toyamadesign.jp/

BLACK AND SILVER
THE EXPLORING NEW COLORS

vol.45

offer vol.45

CONTENTS

04 特集
クリエイティブ・デザイン・ハブ　オープン

08 デザイン講習会
日本企業が目指すべき顧客価値イノベーション
講師：延岡　健太郎

21世紀の大変革
ＩＴイノベーションの最前線から次代を予測！！
講師：林　信行

10 富山のデザイン発進力強化事業
「越中富山　技のこわけ」プロジェクト

12 デザイン人材マッチング事業
とやまデザイントライアル

14 富山・台湾エクセレンスデザイン開発事業
富山・台湾デザインワークショップ

16 富山プロダクツ選定事業
優れた富山ブランドとして今年度16点を選定

19 デザインセミナー
デザインとエンジニアリングで考える次の産業
講師：名木山　景／田子　學／岡　雄一郎

22 イブニングサロン
次代を拓く素材・技術・用途のデザイン
講師：林　裕輔／安西　葉子

パーソナルモビリティのカテゴリーをつくったパイオニアが語る
ひとを中心としたものづくり
講師：加藤　喜昭

24 富山県商品開発研究会
アジアから世界に向けて発信するデザイン
講師：田中　一雄

四津川製作所の２商品、ゴールデン・ピン・デザイン・アワードを受賞

26 2017（平成29）年度事業報告

COVER STORY

表紙デザインの“印刷実験”

文・中谷裕也

総合デザインセンターが発行する機関誌『offer』（年刊）は、毎号地元ゆかりのデザイナーによって表紙がデザインされている。今号の表紙を担当するのは、高岡市出身のエディトリアルデザイナー金田介寿さん。金田さんが打ち出したコンセプトは“表紙で印刷の実験をしてみよう!!”。印刷では通常、シアン（青）・マゼンタ（赤）・イエロー（黄）・ブラック（黒）の４色のインキが使われるが、それをわずか２色のインキで、従来の印刷表現の常識を覆すような表現をつくり出そうというもの。４月の完成まで、印刷会社のスタッフを交えながらグラフィックデザインの「実験」が行われた。

わずか２色ながら、奥深く複雑な仕上がり

銀色と黒、わずか２色のインキを使いながら、奥深く複雑な仕上がりを目指す。それが金田さんが考案した表紙デザインだ。まず黒色のインキでテキスタイルパターンを印刷する。次に、そのパターンを塗りつぶすように、全面に銀色のインキを印刷する。すると銀色のインキを通し、先に印刷した黒色のパターンが微妙に透けて見える。最後にこの銀色の上にもう一度、スプレー柄パターンを黒色で印刷することで「黒→銀→黒」という３つのインキ層が形成される。複雑に重なり混じり合った３層のインキの濃淡パターンは、あたかも着色仕上げされた高岡銅器や、蝋色（ろいろ）仕上げされた漆器のようなテクスチャを描き出す。

予測できぬ「思いがけなさ」を印刷の世界にも

今日、印刷の仕上がりはコンピュータのグラフィックソフト上で、ほぼ100%予測できる。現実とコンピュータシミュレーションの差がほとんどない「予測可能」な世界だ。金田さんのデザインは、そんな印刷の常識に「ゆらぎ」をもたらす。「刷ってみるまで分からない」、そんな不確実性を印刷の世界に持ち込むものとなっている。

例えば３色のインキを、時間を置かずに印刷するか、前のインキが十分に乾いてから次のインキを印刷するか、その時間差によって仕上がりは大きく変化する。また印刷機に投入するインキの量（盛り）のわずかな変化で、まったく異なる表情が現れたりもする。デジタルにコントロール可能なものと思われてきた「印刷」の世界が、まるで職人の手わざによるアナログな世界のように揺らぎだす。デザインによって引き起こされる、印刷の「実験」である。

インキの乾燥時間、紙の種類やインキの色、パターンの濃淡などを変えながら、より奥深い表現を目指して実験は続けられた。

数ある実験の中から採用されたのが今号の表紙である。

KAIJU KANADA

Editorial Designer

金田介寿／高岡市生まれ。金沢美術工芸大学商業デザイン科ヴィジュアルデザイン専攻を修了の後、東京の広告制作会社に勤務。エディトリアルデザイナーとして独立後は、アーティスト「氷室京介」への作品提供やカルチャー誌「EYESCREAM」、メンズファッション誌「GQ JAPAN」などをはじめとした、さまざまな雑誌・広告媒体・商品パッケージ等のデザインを手がける。2017年4月より、拠点を富山県に移し、活動中。ホームページ：kaijuinc.com

CREATIVE
DESIGN
HUB

特　集

県内企業と異脳の専門家が協働し、イノベーションを生む次世代のスキーム作りを目指して

IoT、AI、VR、ロボットなど、いま産業界で起きている大きなパラダイムシフトに対応し、県内企業のさらなる発展と競争力強化をいかに実現していくか。「クリエイティブ・デザイン・ハブ」は、県内ものづくり産業と多彩なスペシャリストが「集い」「共に考え」「実証する」、そのような場として誕生いたしました。不透明な時代への指針を見出し、新しいものづくり産業を創造するシンクタンク機能に加え、企業の海外進出やインバウンドなど新たな市場開拓を支援する情報発信機能も充実させ、未来に飛躍する「イノベーション型ものづくり産業」の可能性に挑みます。1999年の創設以来、富山県総合デザインセンターが蓄積してきた実績とリソースをフルに活用しながら、県内企業のコア技術とデザインの融合、異業種連携による新製品の開発、そして新しい価値の創造など、確かな成果を産み出して参ります。

富山県総合デザインセンター 所長　**桐山 登士樹**

「クリエイティブ・デザイン・ハブ」開所式

［期日］2017年11月15日（水）　［会場］クリエイティブ・デザイン・ハブ 1F ピロティ

石井知事をはじめ関係者が出席し施設のオープンを祝いました。

共に考え、共に創造する。
次世代の産業へ向かいます。

ものづくり産業を取り巻く環境は、技術革新やパラダイムシフトなど、世界規模の大変革時代が到来しています。県内企業においても、従来の受注型からイノベーション型への革新と飛躍が求められています。
これからのイノベーション型産業の創出には、高い技術力を持つ県内企業と様々な思考を持つ「異脳」のスペシャリストとの交流による「THINK（＝思考の大ジャンプ）」が欠かせません。富山県総合デザインセンターでは、県内ものづくり産業と多彩なスペシャリストが集い、共に考え、実証する、新たな拠点として、クリエイティブ・デザイン・ハブを整備し、富山から創造・発信される「イノベーション型ものづくり産業」の創出をめざします。

共に考え、共に創造する空間。

共同開発やプロジェクトを遂行するため入居オフィスや連携交流スペースを設けています。
最先端設備の利用や研究員のサポートでより充実した研究開発を行うことができます。

クリエイティブサロン

本施設に集うメンバーが自由に交流し、創造力を高めるスペース。
モニターを使用してのWeb会議も可能です。

デザインオフィス

各オフィスの一壁面は全面ホワイトボード仕様。
アイデア出しやミーティングなどで活躍します。

様々なプログラムで、県内企業と異脳の専門家が協働し、イノベーションを生むスキームを作ります。

テーマ・開発領域を探す　未来への見解を広げる

イブニングサロン

国内外で活躍する専門家とともに、これからのライフスタイルについて語り合うフォーラムを定期的に開催し、新たなビジネス（成長産業）構築のヒントを探ります。

エンジニアリング
デザイン・建築
ロボット
IoT
マーケティング・PR
次世代マテリアル など

リサーチを行う　より専門的な知識を深める

ゲストトーク

「次世代のものづくり」について、知識を深めるトークショーを行います。

豊かな発想を生む　未来思考を持つ人材を育てる

ワークショップ

入居企業の人材育成を目的としたワークショップ（デザインシンキング、ハッカソン等）を行う中で、企業の潜在能力に点火し、柔軟で独創的な発想力を生み出します。

開発スキームを見出す　ネットワークを築く

オープンイノベーション

開発テーマを持つ企業と協力企業とのマッチングを行います。異業種企業や異脳人材とのネットワークを築き、コラボレーション型開発プロジェクトの創出を支援します。

研究開発　アイデアを実証するモデリング・モニタリング

3Dプリンターをはじめとした試作ツールの提供や商品モニタリングの実施により、商品開発を支援します。

高精細3Dプリンター

3次元テクスチャー加工システム

モデリングマシン

CNCドリリングマシン

デジタル撮影システム

デザインCAD／CG

記念セミナーとして、技術経営を専門とする一橋大学イノベーション研究センター長、教授の延岡健太郎氏、アップルやグーグルの企業動向の分析をはじめ、独自の視点で取材を行うITジャーナリストの林信行氏をお迎えし、イノベーションに関するお話を伺いました。

［期日］2017年11月15日（水）
［会場］富山県産業高度化センター 2F 会議室

日本企業が目指すべき顧客価値イノベーション

延岡 健太郎
一橋大学イノベーション研究センター長、教授
1981年大阪大学工学部卒業。マツダ（株）入社、商品戦略担当。93年マサチューセッツ工科大学（MIT）経営学博士。94年神戸大学経済経営研究所助教授、99年同教授。2008年より一橋大学イノベーション研究センター長、教授。専門は経営戦略、技術経営。主な著作は『MOT［技術経営］入門』『価値づくり経営の論理』など。

機能やデザインだけではない

私の専門はマネジメントテクノロジー（技術経営）という分野です。今、日本の製造業の企業力、国際競争力が非常に落ちてきていると言われています。アップルなどに負けてしまっている。その原因は何か。顧客の価値観がガラッと変わってしまったからです。技術だけ、機能だけでは駄目です。かといってデザインだけでもない。機能もデザインも製品の使い心地といった経験も…すべて含んだ全体の価値、「統合的価値」と呼んでいるものの重要性を考えねばならなくなってきたのです。

イノベーション＝新しい価値づくり

企業にも地方自治体にも求められるイノベーション。経済産業省は「技術革新」と訳していましたが、本来イノベーションにはInvention（技術革新）とExploitation（社会活用・発展）の2つが必要です。顧客に役立ち社会変化が実行されて初めて、イノベーションと言うのです。あるいは「顧客が高くても喜んで買いたいと熱望する商品を創造すること」がイノベーションです。日本企業はInventionに偏りすぎています。

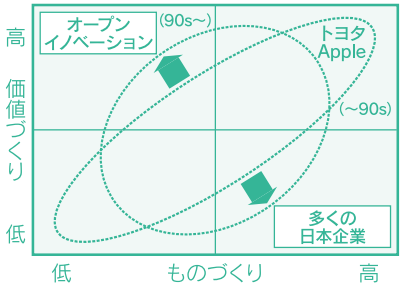
分かりやすい例としてアップルとアンドロイドが挙げられます。それぞれの平均販売価格は、iPhoneは＄691、かたやAndroidは$215。この両者の機能の差があるのかと言えば、ほとんど無い。しかし大きな価値の差（付加価値）がある。この付加価値を創造することこそが、イノベーションなのです。

ものづくりと価値づくり

日本の製造業の付加価値は下がり続けています。かつては「いいもの」を作れば価値が生まれた。日本のものづくりの力が、価値づくりに結びついていた。しかし近年、ものづくりと価値づくりの相関関係が非常に希薄になっている。伝統工芸の世界がまさにそれです。多くの日本企業は、この図で言うところの右下に位置づけられつつあります。逆に左上のように、ものづくりをやっていなくてもオープンイノベーションで高い価値づくりができる企業も出てきました。目指すべきは右上です。アップルと、日本では例外的に自動車産業が、ものづくりと価値づくりを高い次元で実現している事例と言えます。

ものづくり力を意味的価値に結びつける

アップルの成功でよく取り上げられる



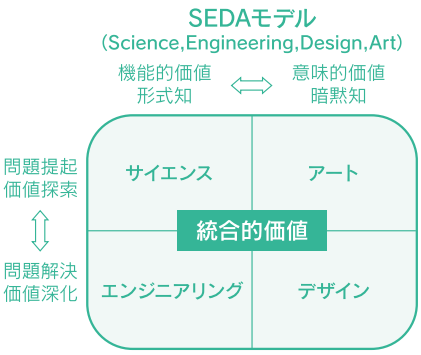
のは、ブランドやデザインなどで、左上の象限の会社だというイメージが強いですが、実はアップルはものづくりでも傑出しています。独自OSや独自設計の半導体に加えて、ジョナサン・アイブ設計によるアルミ板を削り出した筐体「ユニボディー」に象徴されるクールなデザインと本物感。この筐体だけで3,000円かかるのですが、このような価値、つまりものづくりの力を意味的価値に結びつけた「統合的価値」こそ、日本企業、富山県の企業が目指すべき方向だと思うのです。

SEDAモデルで統合的価値づくりを

そこで私が提唱しているのが、サイエンス、エンジニアリング、デザイン、アートの頭文字から名付けた「SEDAモデル」です。今後日本の製造業は、これらすべてを統合するような価値をつくり出していくべきで、中でも特に、現状に対して問題を提起し新しい価値を探索していく「サイエンス」と「アート」が重要なキーワードになってくるでしょう。

SEDAモデルで価値づくりをしている会社のひとつにマツダがあり、4つの価値の中でもサイエンスとアートに力を注ぎ「根本的に考えよう」「常識を捨てよう」を合言葉に製品づくりを進めてきました。サイエンス思考においては、ロータリーエンジンの歴史から始まり、スカイアクティブエンジン、HCCIエンジン…と世界が驚く革新を実現してきました。また「クルマはアート」との考えで、顧客に迎合しない自己表現としての、マツダにしかできない造形美を作り出しています。

今後はますます、SEDAによる統合的価値づくりが必要となっていくでしょう。その中でも特に、新しい意味や思いを表現・提案する「アート思考」の重要性を強調しておきたいと思います。



21世紀の大変革 ITイノベーションの最前線から次代を予測!!

林 信行

ITジャーナリスト、(株)リボルバー社外取締役、ダイソン財団理事

1967年生まれ。アップルやグーグルの動向や技術、製品を継続的に取材、情報技術分野に精通している。「ステキな21世紀」をテーマに、これからの時代や風景をつくる試みを取材。ニュース記事やソーシャルメディア、講演を通し伝えている。最近はファッション、教育、ヘルスケア領域に注力。『林信行の「今そこにある未来」セミナー』『IPHONEショック』『アップルの法則』など著書・訳書多数。

スマホとIoTがもたらすインパクト

2007年、iPhoneが登場しました。21世紀はここから始まったと私は考えています。この小さな製品の中には、実に様々な道具が入っています。電話はもちろんカメラ、地図、さらにはプチ人工知能であるSiri(シリ)はほとんど秘書として機能してくれます。スマートフォンはもはや人体の一部、人体の延長にさえなっています。補聴器や血糖値測定器など、iPhoneやiPadに接続するよう設計された「Made for iPhone」の様々な電子アクセサリも登場しています。

最近では、エアコン、掃除機などの住宅設備や家電をスマホと無線で接続できるようにIoT化する動き、つまり、スマホを「万能リモコン」にしようとする動きがあります。アプリを起動してタッチ操作という物もあれば、Siriなどの音声操作で操作できる物もあります。やがて自動車や都市インフラもIoT化が始まるでしょう。やがて自動車や都市機能にもIoTとスマホを介してつながります。ファッション分野ではそれらを使った新しい表現も生まれています。

3DFab革命によるB2i

製造技術も大きく変わってきています。それは「3DFab(ファブ)革命」です。3Dプリンターは今やものづくりや医療、ファッションやアート表現など社会の様々な分野で用いられています。3DFab革命によってものづくりは適量生産、多品種少量生産へ、個々人にジャストフィットした製品を提供できる「B2i(Business to Individual)へと進化しつつあります。B2iは、ファッション、医療、薬剤、飲食、ショッピングなどあらゆる分野で波及していくことでしょう。

AIの可能性と限界

最後はAIについてです。AIは今、クラウドなどサーバー群に蓄積されたビッグデータの解析や画像認識、翻訳といった分野から、医療、法務、警備などにも活用されようとしています。AIとロボットアームを組み合わせれば、高度な職人の技を学習させ再現することも可能です。こうしたAIの時代に、人間に求められるのは何か。それは知識や情報よりも課題設定力です。

以上、デジタルテクノロジーによる社会の変化の一片をご紹介しましたが、私たちは今「22世紀にどういった風景を残したいのか」を考えなくてはならないのではないでしょうか。その意味で地域や伝統、その場でしかできないこと、つまり「場の力」を活かしていくことが大事だと思います。

かがやきTOYAMA 逸品フェスタ2017にてお披露目

［期日］2017年12月11日（月）～17日（日）
［会場］日本橋とやま館

プロジェクトメンバー

下尾 さおり／shimoo design・木工作家
進藤 仁美／D&DEPARTMENT TOYAMA 店長
能作 幾代／nousaku 店主・チーズソムリエ・一級建築士
真野 知子／ギフトコンシェルジュ
山田 遊 ／（株）method 代表・バイヤー

「越中富山 技のこわけ」プロジェクト

第二弾「福分け片口・ぐい呑」が誕生しました。

富山県総合デザインセンターが中心となり取り組んできた「越中富山お土産プロジェクト」。富山に息づく幸せを皆で分かちあう“おすそわけ”の風習をお土産のかたちにしてお届けしています。

プロジェクトの経緯

2018年2月発売開始した、第二弾「福分け片口・ぐい呑」は、富山の美味しいお酒を富山の技で味わって頂きたいという思いから、砺波市の酒造メーカーである若鶴酒造株式会社さんにもご協力頂き、開発を進めてきました。

プロジェクト委員会では、まず日本酒について学ぶことからはじめ、県内企業・作家を交えての検討会を重ねてきました。酒器の素材や形によって日本酒の味わいも変わり、お酒の作り手からのご意見も開発に取り入れました。

第一弾と同様に富山を代表する技を県内企業と作家によって、片口とぐい呑に仕立てました。異なる素材を組み合わせてお酒を楽しめるよう、片口は180㎖（1合）、ぐい呑は約30㎖入る小ぶりなサイズで展開しています。

福分け片口

硝子

maru -クリア-
ガラス(宙吹き)　H90 φ90　木下 宝

硝子

maru -サンド-
ガラス(宙吹き)　H90 φ90　木下 宝

硝子

tone
ガラス(宙吹き)　H65 φ90　鷲塚 貴紀

金属

らいちょう
錫(生型鋳造)　H70 W95 D100　平戸 香菜

金属

月
錫(ゴム型鋳造)　H70 W90 D80　(株)能作

福分けぐい呑

硝子

choinomi
ガラス(宙吹き)　H50 φ50　木下 宝

硝子

guimaru -クリア-
ガラス(宙吹き)　H40 φ65　木下 宝

硝子

guimaru -サンド-
ガラス(宙吹き)　H65 φ40　木下 宝

硝子

tone
ガラス(宙吹き)　H55 φ78　鷲塚 貴紀

漆芸

石垣 -黒-
ガラス・漆(螺鈿)　H55 φ75　天野漆器(株)

漆芸

石垣 -朱-
ガラス・漆(螺鈿)　H55 φ75　天野漆器(株)

金属

BANBOO -アースブラウン-
真鍮・水目桜(銅器着色・轆轤挽)
H52 φ50　(有)四津川製作所

金属

DON -アースブラウン-
真鍮・水目桜(銅器着色・轆轤挽)
H52 φ50　(有)四津川製作所

金属

らいちょう
錫(生型鋳造)　H30 W65 D60　平戸 香菜

陶芸

MIST -NAVY-
半磁器土(轆轤成型)　H50 φ65　安藤 由香

陶芸

MIST -BLUE GRAY-
半磁器土(轆轤成型)　H50 φ65　安藤 由香

金属

月
錫(ゴム型鋳造)　H28 φ52　(株)能作

TOYAMA
DESIGN
TRIAL

デザイン人材マッチング事業

とやまデザイントライアル

富山県総合デザインセンターでは、県内企業のクリエイティブ人材確保支援の一環として、県内外のデザイン系大学と協力関係を結び、産学官連携による人材マッチング事業を行なっています。2017年度は、武蔵野美術大学、長岡造形大学、富山大学芸術文化学部と連携したワークショップやバスツアーを実施しました。

ワークショップ　真鍮鋳物のプロダクト制作

武蔵野美術大学

［期日］2017年7月28日～30日

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科の4年生8名と、研修旅行で富山県を訪れている同学科1～4年生の37名が参加して、1日目は高岡市の企業視察および伝統文化体験会が行われました。

一行は2組に分かれ、小泉昇邸（高岡市金屋町）での茶道体験に続き、（有）モメンタムファクトリー・Orii（同市長江）、（株）二上（同市長慶寺）の工場やショールームを見学。その後、国宝 高岡山瑞龍寺を訪問・見学しました。

2日目から2日間にわたって、高岡市デザイン・工芸センターで真鍮製品づくりのワークショップが行われました。参加した工芸工業デザイン学科の4年生は、4月中旬から7週間の授業の中で職人に直接指導を受けながら、コンセプト立案からデザイン提案まで行いました。自分たちがCAD等でデザイン・設計してきた図面をもとに、事前に富山県総合デザインセンターで原型を制作し、今回型づくり、鋳込み、着色・研磨など一連の作業に取り組みました。最終日には、同センター会議室で製品のプレゼンテーションが行われ、（株）二上の二上社長などから講評やアドバイスを受けました。

学生の作品は、11月13日～26日に富山県産業高度化センターで開催された「富山デザインウエーブ2017デザイン展」で披露、また、2018年2月19日に行われた成果発表会でも展示されました。

企業視察・文化体験

真鍮鋳物ワークショップ

バスツアー　Uターン学生のための富山県企業見学

長岡造形大学　［期日］2017年9月5日～6日

長岡造形大学の学生17名（うち富山県出身者12名）が参加し、県内企業の見学と相互の意見交換会を開催しました。訪問した企業は、（株）能作、（株）ウイン・ディー、三協立山（株）、富山スガキ（株）、（株）宝来社の5社。その他2社が、学生に対し自社事業の取組みについてプレゼンテーションを行いました。またこれらの様子を冊子にまとめ、県内企業への就職を希望する学生等に配布しました。

ワークショップ　「富山を包む」

富山大学芸術文化学部　［期日］2017年10月16日～2018年1月29日

富山大学芸術文化学部の学生約22人が参加し、「富山を包む」をテーマとする富山県美術館のミュージアムショップで使用される包装紙のデザイン制作に取組みました。（株）山田写真製版所、中越パルプ工業（株）のサポートを受けながら、11月下旬までに5案を作成。山田写真製版所で印刷し、1月に最終発表を行いました。2月1～12日にかけて試作品展示を富山県美術館ミュージアムショップで開催しました。

成果発表会

［期日］2018年2月19日　［場所］武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

2017年度に行われた「とやまデザイントライアル」の成果発表会が、東京都港区赤坂ミッドタウンタワー5階にある武蔵野美術大学デザイン・ラウンジで開催されました。武蔵野美術大学「真鍮鋳物のプロダクト」、富山大学芸術文化学部「富山県美術館ショップの包装紙」「ギフト用靴下」の作品展示とワークショップの報告が行われたほか、両大学教員、富山県総合デザインセンター関係者などによる「企業が求める人材像と大学の人材育成の現状」についての座談会が行われました。

TOYAMA
TAIWAN
DESIGN
WORKSHOP

富山・台湾エクセレンスデザイン開発事業

富山・台湾 デザインワークショップ

富山県総合デザインセンター主催の「富山・台湾デザインワークショップ」が、8月1日から3日間の日程で開催されました。このワークショップは、当センターと台湾デザインセンターの連携事業として実施したものです。台湾からは4組の若手デザイナーが訪れ、富山県の工芸職人のサポートを受けながら、真鍮と錫を素材に「文化や暮らしの習慣に裏付けられた生活用品」をテーマに、商品づくりに挑みました。

作品製作

［期日］2017年8月1日～2日

今回、来県したのは、デザイナーおよび台湾デザインセンターの職員、カメラマンら総勢12名。県総合デザインセンターに到着した一行は、オリエンテーションの後、隣接する高岡市デザイン・工芸センターの工房に移動。デザイナーらは、富山県の工芸職人（2名）および県総合デザインセンター職員のサポートを受けながら、型づくりから鋳造までの一連の作業を行いました。

作品製作に取り組んだ後、鋳物メーカー能作の工場を見学。同社の職人の協力を受けながら作品の研磨作業などを行いました。

企業視察

［期日］2017年8月3日

モメンタムファクトリー・Orii、シマタニ昇龍工房では、高岡伝統の金属への着色技法や鍛金技法を見学するとともに、それらを活かした今日的な商品開発への取り組みを視察。昼食をはさんで訪問した大寺幸八郎商店およびKANAYAでは、高岡の伝統家屋を見学するとともに、店舗に展示されている作家・職人・デザイナーの作品群に触れました。最後に訪問した平和合金では、大型鋳物の鋳造作業や、ロストワックス製法などを見学しました。

プレゼンテーション

［期日］2017年8月3日

一行は、能作のカンファレンスルームに移動、製作した作品のプレゼンテーションを行いました。県内企業のデザイン担当者も数多く参加。富山の伝統工芸技術を独特な視点で解釈し作品化したデザイナーの作品を興味深く見つめていました。

その後、田中智子（株）三越伊勢丹 三越銀座店 リビング・ソリューション営業部長が、日本の工芸マーケットの現状を紹介。同店の売上の約35%を外国人が占めており、日本の工芸品などを集めたジャパンコレクションコーナーが好評を博していること。クラフト・民芸・アートの領域がボーダレスになりつつあり、「用の美」とともに「いつくしみ」がキーワードとして浮上しつつあること。こうしたトレンドの中での金属という素材の可能性―などについて言及がなされました。

作品紹介

Wagashi dessert cutlery

和菓子用の菓子切りの新しい提案です。先端の断面は日本の伝統的模様を用い、和菓子に挿すと、和菓子の表面にその模様の印が現れるというユニークなデザイン。サプライズ感や視覚的なエンターテイメント感を加えることによって、和菓子の魅力やニーズを広げることができます。

YEN CHEN DESIGN STUDIO

Cultural & Creative Award（2017）
Golden Pin Design Award（2017）

Snowflakes

面と面を交差させて形成した立方体のようにみえるユニットを7つ配置したデザートプレートを提案しました。面に高低差を持たせたデザインによって、逆さに置くと、鍋敷きにもなる使いやすいデザインです。交差や高低差がもたらすグラデーションの利いた輝きは、空間を明るく彩ります。

gridesign studio

Golden Pin Design Award（2017）、Cultural & Creative Award（2017）
A' DESIGN AWARD／Silver Award（2016）
Design for Asia Awards／Silver Award（2016）

NEST

カラスは光るものを巣に持ち帰る習性があり、古来、日本では吉兆を示す鳥とされていることからヒントを得て、アクセサリーを収納でき、インテリアにもなる作品を提案しました。中央の部分はモノを置きやすいように指で少し凹ませることができ、形はまるで両手で大事な宝物を持つように見える、ユニークなジュエリーボックスになります。

Chen,Chien-Chih

YOUNG PIN DESIGN AWARD（2017）
qí shân miào shuî , jìng yì dông fâng（2017）

CARTON HOLDER

ガムテープを使わず、一時的に段ボールを閉じることができるシンプルな道具を提案しました。蓋の中央にある隙間にスライドさせれば、開け閉め自由自在。リボンをかたどったシルエットは、ギフトを開ける時のようなワクワク感を演出しています。また、ペーパーウエイトにもなります。

YOW! design Inc.

iF Design Award（2015）、IDEA／Finalist・Bronze（2014）
Design for Asia Award／Silver Award（2014）
Good Design Award（2014）、Red dot Design Award（2014）

撮影協力　天野漆器（小皿）／大野屋（和菓子）／nanosize.（アクセサリー）

TOYAMA PRODUCTS

富山プロダクツ選定事業

優れた富山ブランドとして今年度16点を選定

県内で企画・製造したプロダクト製品を対象に、性能や品質、デザイン性に優れた商品を富山県が選定し、その販路拡大の支援を行っています。

選定委員

委員長　桐山登士樹　富山県総合デザインセンター所長
委　員　内田和美　富山大学芸術文化学部教授
高川昭良　高岡市デザイン・工芸センター所長
髙木喜義　(財)富山県新世紀産業機構中小企業支援センター部長
林口砂里　(有)エビファニーワークス代表
茂木新之助　(株)専通クリエート商品本部商品企画室バイヤー
大矢寿雄　富山県総合デザインセンター顧問

2017年 9月 5日　選定委員会
2017年10月 1日　選定証交付
2017年10月26日～28日　展示会

平成29年度 富山プロダクツ選定商品（順不同）

★は再申請により、選定された商品

MASU（黒、朱、クリア）

［ガラスのマス］

漆器くにもと

削りだしたガラスの底面にだけ塗られた漆の色が様々に映り込み、見る角度によって美しい表情を見せてくれる。上から覗き込むと、角の面取り線が映り込んで結び模様が現れる。
デザイン：中村洋介（2013年富山プロダクトデザインコンペティション とやまデザイン賞受賞）

［講評］漆とガラスのコラボに美しさを感じる。

むすび椀、鉢、プレート（黒釉／粉引）

［食器］

(株)砺波商店

やさしい三角形はおむすびが由来。
陶器のように見えるが、実はアルミで出来ている。

［講評］工夫された質感、使い勝手がよいと思う。

QUILT Square tray 30（黒、朱）
QUILT Round tray 30（黒、朱）

［トレイ］

高岡漆器(株)

やわらかなキルトのテクスチャーは、明治30年に納富介次郎氏によって考案され現在まで作り続けられている銘品、高岡漆器彫刻塗『双鯛盆』の意匠を踏襲しつつ、鯛盆の鱗彫刻だけを抽象化していくことで生まれた。キルティングや石畳を思い起こさせる新しいデザイン。
デザイン：望月未来（工芸都市高岡クラフトコンペ2016 ファクトリークラフト部門 グランプリ受賞）

［講評］誰もが思わず触りたくなるテクスチャーであり、木彫でこの柔らかな表現ができることに誰もが驚く。

アルデコールカーストッパー プレミアムカータイプ（HF2-C600P BK、GR、SV）

［カーストッパー］

(株)高田製作所

車種別に選べるハイクラスなアルミ鋳物のカーストッパー。鋳物技術ならではの自由で立体的なフォルム、人気車種ごとに行われた専用設計が、様々な空間にマッチする。
金属製なのでわれることなく恒久的使用が可能。

［講評］主張しすぎないシンプルなデザインが魅力。

KISEN GUINOMI SWING
（MISTY SILVER、SCRATCH GOLD）
［ぐい呑］

KISEN KATAKUCHI SWING
（MISTY SILVER、SCRATCH GOLD）
［片口］

（有）四津川製作所

底を球面とし、ゆらゆらスウィングする真鍮製の酒器。注がれたお酒と磨かれた片口のエッジがキラキラと光る。MISTY SILVERはスクラッチ酸で真鍮表面を荒らした後、薄く銀色の漆を蒸着させ、SCRATCH GOLDはスクラッチ仕上げをした後、仕上げにガラスコーティング処理している。

［講評］片口、ぐい呑、それぞれの、洗練された形状、趣向をこらした表面仕上げで、2種類とも違う質感があり、両商品を並べることによってお互いを引き立てている。

越碧（コシノアオ）★
［ガラス］

（一財）富山市ガラス工芸センター

富山ガラス工房と富山大学が共同研究を行い開発したガラス素材。日本の文化にあった「和の色」を自らの手で開発したいという強い思いから、その第一弾として富山湾の海をイメージした深く美しい碧を目指した。ガラスを通して見える光の様が移ろい行く富山湾の深みを表している。

［講評］工房のオリジナル色ガラスを開発する姿勢を評価。

AMiS 手すりユニット
［吹き抜け用手すり／階段用手すり］

三協立山（株）

「空間に溶け込む」をコンセプトに、構成要素の「手すり」「支柱」「パネル」を自然に結びつけ、ひとつの“まとまり＝背景”として見える手すりとした。

［講評］主張しすぎないシンプルなデザインが魅力。

使っていいね！ボトル用のびのびストローキャップ
［ボトル用水分補給具］

（株）リッチェル

ボトル缶やペットボトルにかぶせるだけで、簡易ストローボトルになり、こぼさずに飲むことができる。伸縮性のあるシリコーンゴム製。ストロー、ケース付き。市販のストローも使える。
第2回・医美同源デザインコンベンション／一般の部「優秀賞」受賞

［講評］子供達やお年寄り、介護の現場、ペットがいるお宅などはもちろん、幅広いシーンで需要が見込まれる。

コロル おでかけネコベッド
［ペット用キャリー］

（株）リッチェル

猫が好きな丸い物と、やわらかいベッドでリラックス。普段からベッドとして慣れておくことで、来客時や災害時の移動にも安心。スイグアップ式のドアでフードの開閉がスムーズ。持ち手、ドアロック機能、シートベルト固定機能付きでお出かけも安心。
第56回富山県デザイン展 優秀賞 受賞

［講評］近未来的なデザインと機能性の両方が備わっている。

FUKITOシリーズアルミプレート
（A−1、A−2、A−3、A−4）
［食器］

（有）北辰工業所

美しい鋳肌を持つ現代のライフスタイルに調和する洋食器。油も水もはじき汚れにくく、落としてもわれない。
A-PLUSの相川繁隆氏によるデザイン。

［講評］落としても割れないなど、アルミの素材を活かした逸品。

富山もよう しんぶん紙

［包装紙・クラフト用紙］

富山もようプロジェクト

全10種類の富山もようを「NATURE」、「LIFE」の各5種に分類し、新聞用上質紙でプリント。包装紙やクラフト用紙として活用できる。

［講評］富山もようのデザインは素晴らしく、いろいろな商品に展開しているのはとてもよい。

GARASUもよう

［ボトル・グラス］

富山もようプロジェクト
（一財）富山市ガラス工芸センター

富山もようがそのまま飛び出てきたようなガラス。
日常使いに最適な品。

［講評］富山もよう全体として展開される中で活きてくる商品である。

富山もよう 手ぬぐい

［手ぬぐい］

富山もようプロジェクト
（株）ハミングバード

RAICHOU、GARASU、SHIROEBIの3種を3色展開。「注染」という伝統技法で染められており、職人による手仕事のため、一枚ずつ表情が異なる風合いのある仕上げになっている。

［講評］色々なメーカーが手ぬぐいを作っているなかで、デザインが良い。

cusuri kamihu-sen

［紙ふうせん］

富山もようプロジェクト
富山スガキ（株）

富山スガキでは永きにわたり紙ふうせんをつくり続け、売薬さんを通して、笑顔を届けてきた。この「人の笑顔に」の気持ちを大切にしながら、未来に紙ふうせんを残すためにスタートしたプロジェクトが「cusuri」。これまでにないテーマで新しい紙ふうせんをデザイン。遊んだり、飾ったり、贈ったり。大切な人に、より魅力的に、しかもタイムリーに気持ちを伝えられるプロダクトへ。思わず"クスリ"と笑顔がうまれる瞬間を、薬都富山から発信したい。

［講評］紙ふうせんのデザインもかわいいし、パッケージも良い。

炭草花の猫砂

［猫トイレ用木質ペレット］

アイオーティカーボン（株）

富山の木材資源の循環に配慮した植物由来の「おがくず」+厳選した木くずを高温で焼き上げ吸着に優れた「木炭」+「コーンスターチ」のみを使用した脱臭効果の高い猫トイレ用の木質ペレット。

［講評］ペット商品として商品独自性とクオリティーを評価。

collinette aile

［セルフケアツール］

（株）ナガエ

アルミニウムの特性を存分に生かしたセルフケアアイテム。自然の造形をモチーフにした様々な曲線は、顔やボディにフィットする。

［講評］デザインを含め、伝統に裏打ちされた造形、バリエーション展開、使い勝手など製品群の商品性を評価。

富山プロダクツの過去／現在／未来 展

［期間］2017年10月30日（月）～11月12日（日）
［会場］D&DEPARTMENT TOYAMA

2017年度の新たな「富山プロダクツ選定商品」に加え、16年間の「富山プロダクツ」の歩みや、近年選定された「富山プロダクツ」の中から、これからのものづくりを担う若手デザイナーと作り手が生み出した商品とその思いを紹介しました。

デザインとエンジニアリングで考える次の産業

［期日］2017年10月6日（金）
［会場］富山県産業高度化センター 2F 会議室

クリエイティブ・デザイン・ハブのオープンに先駆けて行われたプレイベントでは、「異脳」のスペシャリスト3人を講師として、これからの産業の在り方とデザインについてお話いただきました。

名木山 景
（株）デンソー デザイン部長

1992年多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科を卒業。株式会社GK設計にて公共自治体に向けたサイン計画設計に従事。98年に（株）デンソーに入社、HMIデザイン先行開発を牽引。車載システムデザイン室長を経て2015年よりデザイン部長に就任。17年名古屋に未来実験室創設。

モノとして正しく整える。それがデンソーデザイン。

水のように客先に溶け込む

今日は自動車の話ではなく、デンソーデザインのちょっと変わった取組みをご紹介したいと思います。

デンソーはご存知のように自動車部品の会社。関連会社も含め全世界で15万人の人たちが働いています。B to Bの事業を展開しており、「客先に溶け込んでいい仕事をする“水のような存在”」が社風です。最近では自動車で培ってきた技術を医療や農業の分野にも広げています。そういう会社のデザイン部門、それがデンソーデザインです。

デンソーデザインの代表作のひとつが、自社の工場用に内製化したロボットを医療現場へと展開したロボット、VSシリーズです。液体金属のような斬新な形は、無菌状態を保てるよう表面を平滑にし、関節部分も隙間がありません。この形状は、デザインありきではなく医療現場に沿って作った結果として生まれたものです。車のスピードメーターでは、目盛りの間隔や100km/hの位置などを微妙に調整するデザインをやっており、これはデザインすればするほどデザインしたことが分からなくなる、そのようなデザインの世界です。

モノとして正しく整える

デンソーにとってのデザインとは「モノとして正しく整える」こと。デンソーの製品のほとんどは人々の目に触れないところで使われています。目に触れないものも、その本来の機能や役割に基づき正しく整えることなのです。

デンソーには、振動や音が外に伝わらない素晴らしいモーターがあります。しかし従来の製品からは、その品質の素晴らしさが見た目からは伝わってはこなかった。これをデザインしたのです。機能に不要な無駄な肉を徹底してそぎ落すなどした結果、新しいモーターの形が生まれました。

この仕事をきっかけに、デザイン部では「ソレノイド」「オイルポンプ」「インジェクター」「エンジンECU」（右下写真）といった内部部品のデザインに取り組み、次々と新たな形を生み出しています。

品質が表面に滲み出るデザイン

デザイン部の仕事は、2010年段階ではロボット、メーター、カーナビなど人の目に触れるものが多かったのですが、わずか5年でそれまでデザイナーが足を踏み入れたことがない前述のような製品のデザインへと軸足を移しました。けれどそれらの製品は一般のお客様の目には触れない。では誰にとって、そのデザインは意味があるのか？それはデンソーのエンジニアなのです。デンソー社員にとって製品は「他社の追随を許さない世界一の品質」との自負がある。しかしその品質感は、従来の外見からは伝わってこなかった。それをデザインの力で、品質を体現するような形となったことに、多くの社員が賛意を示してくれています。

モノを整える、風土を伝えるデザイン

「技術力はすぐに真似られるため競争力にならない」と言われます。しかし「風土」を真似することはできません。デザイン部ではデンソーの風土を再発見し、社内外に伝えるためのコミュニケーションデザインにも取組み、雑誌でのシリーズ広告も内製化しています。モノを正しく整える風土を正しく伝え、ビジョンを共有する。それがデンソーデザインにとってのデザインです。

田子 學

(株)エムテド 代表取締役

東京造形大学Ⅱ類デザインマネジメント卒。東芝にて家電、情報機器に携わり、家電ベンチャーリアルフリート(アマダナ)の創業期に参画した後、MTDO inc.を設立。企業や組織デザインとイノベーションの研究を通し、広い産業分野においてコンセプトメイキングからプロダクトアウトまでをトータルにデザインする「デザインマネジメント」を得意としている。

デザインによる産業へのイノベーションとオルタナティブ。

デザインマネジメント

日本ではデザイン会社といえば形や色、いわゆる造形の部分をきれいにマネージしてくれるというイメージが強くあります。しかしエムテドでは、企業や組織のトップと共に指針をつくり、どういうサービスや形でプロダクトアウトするのかという戦略から作っています。造形のデザインは最後で、それ以前の経営戦略から関わる。デザインマネジメントという学問がありますが、それを主軸にして会社を運営しています。

私は慶應大学大学院のシステムデザインマネジメント研究科で教鞭を執っています。最近は「デザインは美大で学ぶ」という考えではない時代となっています。いろんな関係性、社会とのつながりを意識して産業や経営の課題とどう向き合っていくかが問われており、そのためにデザインの視座をもつ必要があるのです。

化学会社と開発した新たなコンセプト素材

今日は、私が関わった三井化学という素材メーカーのプロジェクトをご紹介しましょう。この会社の課題は、素晴らしいイノベーティブな研究開発力を持ちながらも、客先からの注文を待ち受けてしまう体質をいかに変えるか、ということでした。危機感を抱いたとある役員の「突拍子もない発想でいい。ビジョンを描けるデザイナーを入れたらどうか」との声によって、クリエイティブ・パートナーというポジションで3年間を過ごしてきました。研究者たちと様々な実験をくり返し、そのひとつの成果として結実したのが「NAGORI™樹脂(なごり=波残)」でした。

©MTDO inc.

これはプラスチックの新たな可能性を探るプロジェクト。通常プラスチックは枯渇が喧伝される石油を原料としますが、我々が開発したNAGORI™樹脂はその原料のほとんどが海水のミネラルからなる混合プラスチックです。原料のミネラル成分は、中東諸国などの海水淡水化装置で真水を取ったあとに残される残留物からも採ることができます。この無尽蔵に存在する海水から抽出したミネラル成分を添加したことで陶器と変わらぬ質感の新しい素材が作られたのです。世界初となるこの素材は2016年インテリアライフスタイル展で発表され大きな話題となりました。また三井化学にとっては、こうした展示会に出ることでこれまでとは全く異なる業界やコンシューマーとの関係構築にもなりました。

半導体加工工場がワイナリーに

デザインを起点に産業や企業をどうイノベートしていくか。その事例をもうひとつお話ししましょう。それは半導体企業が挑むワイン作りです。依頼があったのは山梨県の塩山製作所という半導体加工メーカー。半導体は事業サイクルが短いうえ、人件費の安い国へ生産が移行しており「もっと長期的なスパンでじっくり取組める事業をしたい」という経営者の想いでプロジェクトは始まりました。温度管理や酸化防止、防塵対策など、半導体加工の工程で必要とされる様々な製造技術を活かしながら、テロワール(土壌)の個性を生かした「世界で勝負できるワイン」づくりに挑んだのです。

このMGVs(マグヴィス)ワイナリーの試みは、これから日本の様々な産業が構造変化によって直面する課題への、デザインによるひとつの解決事例となるでしょう。

©Junya Igarashi

岡 雄一郎
富山県総合デザインセンター プロジェクトリーダー

1989年金沢美術工芸大学卒業。89～97年、NEC（日本電気（株））、97～2016年、アイシン精機（株）にてデザイナー、デザイン部長として勤務。16年デザイン&デザインコンサルタント会社TUG DESIGNを設立。17年4月より富山県総合デザインセンターのプロジェクトリーダー着任。

デザイナーは未来を知っている。みんなをそこへ連れて行く。

「形を整えるだけのデザイン」への疑問

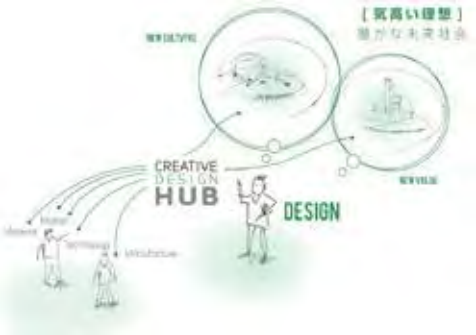
NEC時代は、いわゆる「形のデザイン」をやってきました。その後アイシン精機に移り、自動車のドアハンドルなどのデザインを手がけました。そこでは、見比べても分からないような、コンマ数ミリにこだわり1年間に何度も何度もブラッシュアップし造形していくような世界を経験してきました。

その後、日本のものづくりの多くは海外に移転し、家電・情報家電メーカーの中には事業の売却や撤退を余儀なくされていきました。自動車においても、EV化やカーシェアリングの進行によって産業構造が大きく変わっていこうとしています。こうした時代の潮流の中で、デザインやデザイナーの役割はどうあるべきか。ただ形をキレイに整えることだけで良いのか、という疑問を抱きながら仕事を続ける日々が続きました。アイシン精機のデザイン部長を務めている頃のことです。

美しいビジョンで世界を支える

そうした時、一人の先輩から一冊の本をいただきました。およそ100年前のイギリスの作家ジェームズ・アレンが書いた『「原因」と「結果」の法則』という本でした。著者は「気高い夢を見ることで、夢見た人間になる」「理想は自分の未来を予言するものに他ならない」「孤高の理想家たちの美しいビジョンによってこの世は支えられている」と書いています。つまり「理想無き人には未来は切り拓けない」と説いていました。また「理想家たちはこの世界の救世主たちです」とも書いており、これを私は勝手に翻意して「デザイナーはこれからの世界の救世主なのだ」と読んだのです。美しいビジョンでこの世を支えるのがデザイナーなのだ、と。

様々な価値や文化や技術を取りまとめ未来の理想を描き、世の中を引っぱって行くことがデザイナーの仕事である。その考えを基に、「気高い理想が未来を創造する」「デザイナーは未来を知っている。そしてみんなをそこへ連れて行く」「IMAGINE NEW DAYS」という標語を作りデザイン部に掲げました。そしてミラノサローネの場で2014年から3年間にわたり、その成果を発表してきました。



イノベーションを生むためのスキーム作り

2017年から富山県総合デザインセンターのプロジェクトリーダーに就任し、クリエイティブ・デザイン・ハブの立ち上げに参加しました。ここでは一企業の一方向の視点から脱却し、あらゆる視点あらゆる方向から未来を考えていきたい。その「理想とする未来」に対して、その企業は何ができるのか、どう関われるのかを考えていく場にしたいと思っています。人材育成を図りながら異業種や異脳の人材との交流の中からコラボレーション型のプロジェクトを生み出し、3Dプリンターをはじめとする試作のための設備機器も整え、商品化までしっかりサポートする。そのような場として機能していきます。このハブが、理想を掲げ未来を創造していく場になるよう推進していきます。

EVENING
SALON

次世代開発のスキームづくりを
目的とした多分野のスペシャリストを
招いたフォーラム

イブニングサロン

第1回

次代を拓く
素材・技術・用途のデザイン

［期日］2018年1月22日（月）
［会場］富山県総合デザインセンター 2F
クリエイティブサロン

インテリアデザインから、素材開発や新たな用途開発など、従来の枠組みを超えた幅広い活動を展開するデザインスタジオ・ドリルデザインのお二人を招き、その実例をお話しいただきました。

林 裕輔／安西 葉子
（有）ドリルデザイン

林裕輔と安西葉子によるデザインスタジオ「ドリルデザイン」。2001年設立。プロダクトデザインを中心に、グラフィック・パッケージ・空間デザインなど、カテゴリーを超えてデザインとディレクションを行う。アートディレクション、ブランディングデザイン、素材開発、用途開発、技術開発の協力など、カタチをつくる以前の段階からプロジェクトに参加することも多く、クライアントと共に新しいデザインの可能性を広げている。また、日本の高度な技術や素材を、デザインを通して商品化し、世界へ向けて発信することも積極的に行っている。

素材を活かす

ドリルデザインは、メーカー（依頼主）が得意とする加工技術や素材を洗い出し、コンセプトメイキングからアイテム構成、シリーズ化、製品のデザイン、そしてマーケティング戦略からwebなどの販促ツールづくりまでをトータルにお手伝いしています。林がプロダクトデザイン、安西がアートディレクションやグラフィックデザインを担当しています。

本日は「素材」を切り口としたお話しをさせていただきますが、先ずは「素材を活かす」をテーマとした事例をご紹介します。

これは「つくし文具店」のえんぴつキャップです。一本の金属を一筆書きのように曲げながらキャップとして機能する製品としました。金属の弾力を活かし、えんぴつをアクセサリーのように身につけることもできます。またペンケースにもきっちり収納できるデザインとなっています。

特殊印刷技術を持つ印刷会社のために開発したプロダクトシリーズ「ジオグラフィア」です。白地図の地球儀の他にも、印刷技術や特殊加工技術を使い、様々な「地球を感じる」プロダクトを展開しています。

素材と素材を組み合わせる

これは静岡県の下駄の会社のために作った商品。「冬でも履ける下駄を作りたい。低コストで」というオーダーから始まったプロジェクトです。足の形に合わせ3D形状に木を削り込んでいくとコストがかかるため、2枚の木の板を伸縮性のあるEVA樹脂でつなぐ構造としました。ソール部分が足の動きにあわせて曲がるので、長時間履いても疲れません。木を削ると1万円超の売値にならざるを得ませんでしたが、異素材の組み合わせで8,000円未満の価格に抑えることができました。素材と素材を組み合わせることで、コストダウンという課題をクリアし、デザイン的にも特色ある製品となりました。

素材そのものをつくる

最後に、素材段階にデザイナーがタッチすればどうなるか、という事例をご紹介しましょう。

きっかけは、「合板の構成をかえたら新しい合板ができるのでは」ということでした。そこで家具工房と一緒に「合板研究所」というものを立ち上げ、北海道の合板メーカーも巻き込みながら開発したのが「Paper-Wood」です。単板の間にカラフルな再生紙を積層することでこれまでにない素材が誕生しました。店舗の内装材として用いたり、スツールやバッグの把手、ペーパーウェイトなどとして製品化しています。

工場の中にデザイナーが入ることで、つまりエンジニアとデザイナーのコミュニケーションの中から、新しい製品や事業への可能性が広がってくるのではないでしょうか。

第2回

ひとを中心にしたものづくり

［期日］ 2018年3月14日（水）
［会場］ 富山県総合デザインセンター 2F
クリエイティブサロン

「パーソナルモビリティ」という新しいカテゴリーの創造に携わってきた、加藤喜昭氏にお越しいただき「ひとを中心に考える」これからの「移動」の在り方についてお話いただきました。

加藤 喜昭
アイシン・コムクルーズ（株） 取締役社長

1977年トヨタ自動車に入社、エンジン制御など電子分野の開発設計を担当。95年トヨタテクニカルセンターU.S.Aジェネラルマネージャー、2001年第1電子技術部長、03年エグゼクティブ・チーフエンジニアとしてコンパクトカーやSUVの製品企画を担当。06年アイシン精機に移籍し常務役員、専務役員を経て、16年よりアイシン・コムクルーズ（株）取締役社長。

自動車とソフトウェア

アイシン・コムクルーズはアイシングループの制御ソフト開発、次世代基盤技術開発を担うため2007年に設立されました。近年、自動車には数多くの電子制御ユニットが搭載されており、エンジンやブレーキ、カーナビなどを制御しています。自動車は今、自動運転やゼロエミッションなど環境への対応を強化しながら、さらにはIoTを中心に社会全体と自動車が融合していくコネクティッドカーへと進化しつつあり、そこで中核的な役割を果たすのがソフトウェアの技術です。日本がこれまで強みとしてきた世界トップのメカ技術にソフトウェア技術を融合することで、自動車の未来に貢献していくこと。アイシン・コムクルーズは、そのような趣旨で設立された会社です。

パーソナルモビリティによる「人間の拡張」

「移動すること」は、人間が社会を営む基盤です。日本で鉄道が敷設されてから140年、自動車が走り始めて約110年、人々の生活とともに移動の在り方は変化してきました。現在、「環境」「エネルギー」「高齢化」といった社会的な課題に対応するため、都市設計やまちづくり等の交通インフラの高度化とともに、新しい移動手段（モビリティ）の開発が進んでいます。安全かつ自由に動け、より高いクオリティオブライフを実現してくれる、そのような次世代モビリティとして注目されているのが「パーソナルモビリティ」です。パーソナルモビリティは、自動車やバイクといった従来の移動体と介助用の車いすとの間に位置づけられる移動機器。私自身も2001年にソニーと共同開発したITカー「pod」を皮切りに、05年愛知万博に出展した「i-unit」、「i-Real」、「i-ROAD」、「ILY-A」といった製品づくりにトヨタ・アイシン時代を通じて携わってきました。パーソナルモビリティは、IT技術やロボット技術を取り入れることによって「搭乗型移動支援ロボット」として急速な進化を遂げていこうとしています。つまり技術の力によってすべての人に安全・安心に移動できる能力を提供する。個人の移動範囲を広げることで、自然や社会とのふれあいの機会を提供し、人間の可能性を広げていく、そのような道具／システムとして次世代のモビリティを構想しているのです。

ひとを中心にしたものづくり

アイシン・コムクルーズは、「ひとを中心にしたものづくり」を事業の指針として掲げています。これまでのものづくりは、ひたすら自分の快適性を求めハイテク・インテリジェントを追求するあまり環境と人間（他者）への様々なストレスを生み出してきました。しかし、これからのものづくりは、自分の快適さのためだけでなく、人・環境・社会・未来と共生できるものでなくてはなりません。私たちはソフトウェア技術、メカ技術などあらゆる分野の知見を集め、「どのような社会をつくりたいか」「社会と人間はどのような関係でありたいか」「それを生み出すエンジニアはどうあるべきか」という3つのことを常に考え続けながら、「自動車」という枠にこだわらず、広く「移動体（モビリティ）」の開発に携わっていきたいと思っています。

STUDY
GROUP

最新トレンド情報の提供
商品開発促進
企業間交流を目的とした研究会

富山県商品開発研究会

アジアから世界に向けて発信するデザイン

［期日］2018年3月7日（水）
［会場］富山県総合デザインセンター 2F クリエイティブサロン

今回の商品開発研究会では、世界のデザインに通暁するとともに数々の国際的なデザイン界の要職を歴任されてきた田中一雄氏を迎え、台湾をはじめとするアジア各国のデザイン動向やマーケットの現状についてお話しを伺いました。また「台湾版グッドデザイン賞」と呼ばれるゴールデン・ピン・デザイン・アワード2017で、ベストオブ作品に選ばれた四津川製作所（高岡市）のブランドプロデューサー四津川晋氏にお越しいただき受賞事例をご紹介いただきました。

台湾とアジアンデザインの今

田中 一雄

（株）GKデザイン機構 代表取締役社長

東京藝術大学大学院機器デザイン修了。（公社）日本インダストリアルデザイナー協会理事長、（公財）日本デザイン振興会理事、国際インダストリアルデザイン団体協議会（ICSID）前理事、中国国際デザイン産業連盟副委員長、グッドデザイン賞、都市景観大賞、Red Dot Design賞 、Braun賞、if Shanghai賞、Australian ・International Design賞などの審査員を歴任。プロダクトから都市環境まで多様なデザインを手掛けている。

台湾 Taiwan

- 台湾は世界一の親日国。「日本が好き」と答える人56%で、日本への関心も高い。また、日本製品への信頼も篤い。
- 近年、生活の質向上への志向が強く、質の高いデザインへの関心も高い。ミドル層の購買意欲も高まっている。
- 東京都墨田区の「すみだ地域ブランド戦略」と提携し、「台湾設計×日本精造」（台湾でデザインし日本で製造）のプロジェクトがスタートしている。
- ゴールデン・ピン・デザイン・アワードの開催のほか、2016年には国際インダストリアルデザイン団体協議会が2年に1度開催するワールド・デザイン・キャピタル台北2016を開催するなど、国家を挙げてデザイン振興に力を上げている。

中国 China

- 「世界のコア＝中華」として世界の先端を常に目指す志向が強く、イノベーションに強い意欲を発揮。
- 政治家・温家宝が唱えた「要高度重視工業設計（インダストリアルデザインを重視せよ）」の指標に基づき、国家戦略としてデザイン振興に力を入れている。
- もはや中国はデザイン水準でも世界レベルに到達し、30カ国余りと提携しながら世界のデザインハブとして機能しはじめている。
- 2006年には中国レッドスターデザイン賞、2015年には金賞2,000万円のデザイン・インテリジェンス・アワード（中国設計智造大賞）などの国際的なデザインアワードがスタートした。

韓国 Korea

- アジア諸国の中では、日本に最も近いデザインテイストの国といえる。
- 大企業がデザイン戦略を強力に推進している。特にサムスンは経営幹部のデザイン知見の強化を進めるなどデザインに力を注いでいる。
- 韓国デザイン振興院（KIDP）によるグッド・デザイン・セレクション（優秀デザイン選定）や、韓国インダストリアルデザイン協会が主催するPIN UPデザインアワードなど国際デザイン賞が開催されている。

シンガポール Singapore

●一人当たりGDPは2007年に日本を逆転、2014年には日本と2万ドルの差がついた。経済力も購買力も今やアジアトップの国となっている。
●国家を挙げてのデザイン戦略にも力を入れている。
●シンガポールデザインカウンシルと都市再開発局によって運営されている最も権威あるデザイン賞・プレジデントデザインアワードをはじめシンガポール・デザイン賞など国際アワードも多い。
●世界的に有名なレッドドット・デザイン賞のシンガポール拠点であるレッドドット・デザイン博物館も2005年に開設された。

インド India

●急速に経済成長を遂げているが、生活格差は極めて大きい。国際的なテイストを持つミドル層も登場している。
●デザインにおいては、シンメトリーなインド独自の装飾への強い嗜好が根強くある。
●2007年にインド政府によって発表された「National Design Policy」に基づきIndia Design Mark（I Mark）を設立。2010年からは日本デザイン振興会と提携し、インド初の包括的なデザイン賞として継続的に開催されている。
●また同ポリシーに基づき、インドデザインのブランド化、高度デザイン教育やデザイン産業育成が推進されている。

まとめ

アジア各国は「デザインは経営資源であり、もう一つの産業成長力」との観点から、国家戦略としてデザインに力を入れている。

日本ではデザインを「意匠」と訳したが、中国では「設計」と訳した。デザインは色・カタチだけではなく、技術革新を先導しブランド構築に欠かせないものとなっている。

四津川製作所の2商品、ゴールデン・ピン・デザイン・アワードを受賞

KISEN
GUINOMI SWING
【MISTY SILVER／SCRATCH GOLD】
KISEN
KATAKUCHI SWING
【MISTY SILVER／SCRATCH GOLD】
P17でも紹介

四津川 晋
（有）四津川製作所
「KISEN」ブランドプロデューサー

四津川製作所（高岡市）のオリジナルブランド「KISEN」の片口とぐい呑みのシリーズが、台湾のデザイン賞「ゴールデン・ピン・デザイン・アワード2017」でベストオブ作品に選ばれました。

ゴールデン・ピン・デザイン・アワードは台湾版グッドデザイン賞。中国をはじめ世界各国からエントリーされたおよそ3,000点もの作品の中から455点がゴールデン・ピン・デザイン・アワードに選定。さらにこのうち県内では「KISEN GUINOMI SWING・KATAKUCHI SWING」、「越中富山 技のこわけ」を含む23点がベストオブ作品となりました。受賞作品の紹介や開発の経緯、ものづくりのポリシー、今後の展望などについて、四津川晋ブランドプロデューサーにお話しいただきました。

BUSINESS REPORT

事業報告

2017（平成29）年度

	名称・日時	内容	備考	場所
1 デザイン開発支援事業	富山県商品開発研究会			
	2017/5/11	ミラノサローネ2017報告 分科会設置の呼びかけ	講師：桐山 登士樹（県総合デザインセンター 所長） 吉本 英樹（デザインエンジニア） 説明者：会員企業担当者	県産業高度化センター 会議室
	2017/7/3	分科会 副資材（パッケージ、パンフレット等商品以外の部分の新素材開発）		県総合デザインセンター プレゼンテーションルーム
	2017/8/3	台湾デザイナー（6名）による作品プレゼンテーション デザインマッチング会		㈱能作 カンファレンスルーム、 imono カフェ
	2017/8/8	富山デザインコンペティション2017応募作品内覧会（1次審査）		国際文化会館（東京都港区）
	2017/9/5	企業紹介プレゼンテーション	長岡造形大学学生17名、教職員5名	県産業高度化センター 会議室
	2017/10/23	富山デザインコンペティション2次審査・授賞式・意見交換会参加		ホテルニューオータニ高岡
	2017/11/21	富山デザインコンペティション2017審査結果報告 デザインセミナー「オランダのデザインと生活…価値観を探る」	講師：ナタリー・デュボワ氏（ユトレヒト・セントラルミュージアム 学芸員） 中條 永味子（MONO JAPAN ディレクター）	県総合デザインセンター クリエイティブサロン 県産業高度化センター 会議室
	2018/2/19	とやまデザイン・トライアル成果発表会・意見交換会参加		武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（東京都港区）
	2018/3/7	「台湾のデザイン&マーケットの可能性を探る」	講師：田中 一雄（㈱GKデザイン機構 代表取締役）	県総合デザインセンター クリエイティブサロン
	2018/3/30	アンビエンテ2018デザイントレンド報告	講師：桐山 登士樹（県総合デザインセンター 所長） 大森 渚（㈱オージュ・コンサルティング 代表取締役）	県総合デザインセンター クリエイティブサロン
	新川・富山相談窓口の開設			
		企業の商品開発やPR、各種情報にいたるまで、幅広くサポート。「商品開発についてアドバイスしてほしい」「企業の魅力や商品を効果的にPRしたい」「商品開発の補助事業を知りたい」といった様々な要望をもつ県内企業、個人事業者の方を対象に個別相談に応じるデザイン相談会を開催。	【新川地区】 相談日時：毎月第1金曜日　13:30～16:30 【富山地区】 相談日時：毎月第2・4金曜日　13:30～16:30	県魚津総合庁舎 405会議室 県民会館 604号室
	デザインプロジェクト推進事業			
	2017/4～2018/3	富山県内のデザイン開発支援策として、新規のデザインプロジェクトの企画立案から試作研究、デザイナーやバイヤー等を交えた商品開発から国内外の販路開拓までをプロデュースする。	派遣先企業①：若鶴酒造㈱ 派遣デザイナー：宮保 真（合同会社ワザナカ） 派遣先企業②：日の出屋製菓産業㈱ 派遣デザイナー：林 久美（ハヤシデザイン） 派遣先企業③：ケーズメタル㈱ 派遣デザイナー：紺野 弘通（HIROMICHI KONNO DESIGN STUDIO）、林 裕輔・安西 葉子（㈲ドリルデザイン） 支援先企業④：富山もようプロジェクト事務局 台湾出品支援企業⑤：㈱天野漆器、KISEN、㈲シマタニ昇竜工房、㈱松井機業、㈱山口久乗、㈱能作、県総合デザインセンター（越中富山 技のこわけ）	
	展示会 2017/8～2018/3	台湾・ゴールデンビンアワード出品支援、販路支援		
2 富山・台湾デザイン エクセレンス開発事業	富山・台湾デザインワークショップ			
	2017/8/1～3	台湾デザイナーを富山に招へいし、真鍮と錫を素材にした作品を製作するワークショップを開催	参加デザイナー：YEN CHEN DESIGN STUDIO、gridesign studio、Chen,Chien-Chih、YOW! design Inc.	県総合デザインセンター 高岡市デザイン・工芸センター
	県内企業と台湾デザイナーマッチング会			
	2017/8/3	ワークショップ作品のプレゼンテーション、県内企業とのマッチング会（商品開発研究会）を開催。		㈱能作 imono カフェ
	展示会 2017/11/13～26	ワークショップ作品の展示		県産業高度化センター 展示室
3 富山のデザイン 発進力強化事業	技のこわけプロジェクト委員会			
	2017/7/18 2017/9/28 2017/11/9 2018/1/22	第1回技のこわけプロジェクト委員会 第2回技のこわけプロジェクト委員会 第3回技のこわけプロジェクト委員会 第4回技のこわけプロジェクト委員会	委員：下尾 さおり（shimoo design／木工作家） 進藤 仁美（D&DEPARTMENT TOAYAMA 店長） 能作 幾代（nousaku 店主／チーズソムリエ／一級建築士） 真野 知子（ギフトコンシェルジュ） 山田 遊（㈱method 代表取締役／バイヤー）	県産業高度化センター 会議室 若鶴㈱ 大正蔵 県総合デザインセンター プレゼンテーションルーム 県総合デザインセンター クリエイティブサロン
	展示会 2017/6/14～16	Interior Lifestyle TOKYO 2017 出展	主催：県総合デザインセンター、デザインウエーブ開催委員会	東京ビッグサイト
	2017/7/6～8/22	～素材と技を伝える新しいお土産の形～ 富山県のお土産デザイン「越中富山 技のこわけ」展	主催：県総合デザインセンター、D&DEPARTMENT TOYAMA	D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY
	2017/8/19～9/8	暮らしにいきる伝統のかほり展 出展	主催：高岡伝統産業青年会	ビームスジャパン（東京都新宿区）
	2017/8/26	富山県美術館 ミュージアムショップ販売	主催：富山県美術館	富山県美術館
	2017/9/27～10/3	富山の魅力展 出展	主催：富山県地域振興課	日本橋三越本店 Gate B（東京都中央区）
	2017/10/26～28	かがやきTOYAMA逸品フェスタ in 富山県ものづくり総合見本市2017 出展	主催：富山県商工会連合会	富山テクノホール
	2017/11/16～12/24	「5人のとやまの若き工芸人」展 技のこわけ参加若手作家による新作展	主催：富山県文化振興課（北陸工芸サミット）	D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY
	2017/12/4	能 style販売	主催：能style	能 style
	2017/12/11～17	かがやきTOYAMA逸品フェスタ2017in日本橋とやま館 出展 「第二弾 福分け片口・ぐい呑」発表	主催：富山県商工会連合会	日本橋とやま館
	2017/12/25～2018/1/8	幸のこわけ・技のこわけの期間限定販売	主催：東急ハンズ新宿店	東急ハンズ新宿店 4階フロア
	2018/2/4～12	テーブルウエアフェスティバル2018～暮らしを彩る器展～ 出展	主催：富山県文化振興課（北陸工芸サミット）	東京ドーム
	2018/2/15～28	富山県「技のこわけ」福分け片口とぐい呑み 「技のこわけ」BAR（立ち呑みバー）開催（期間中の金・土・日）	主催：D&DEPARTMENT TOYAMA	D&DEPARTMENT TOYAMA
4 デザイン人材 マッチング事業	とやまデザイン・トライアルワークショップ			
	2017/4/10～5/27 2017/7/28～30	連携授業 企業視察 真鍮鋳物のプロダクト制作	学生：武蔵野美術大学4年生 教員：田中 桂太（武蔵野美術大学 教授） 講師：二上 利博（㈱二上 代表取締役）	武蔵野美術大学（東京都小平市）、 県総合デザインセンター、 高岡市デザイン・工芸センター
	2017/10/16～ 2018/1/29	「富山を包む」県美術館で使用する包装紙制作	学生：富山大学芸術文化学部3～4年生（「製品評価法」履修学生） 教員：内田 和美（富山大学芸術文化学部 教授 ） 講師：田中 友野（㈱山田写真製版所） アドバイザー：村上 正（富山県美術館ミュージアムショップ） 彼谷 朋美（中越パルプ工業㈱ 営業本部 北陸営業所）	富山大学芸術文化学部 コミュニケーションセンター
	とやまデザイン・トライアルバスツアー			
	2017/9/5～6	Uターン学生のための富山県企業見学	学生：長岡造形大学1～4年生 他教職員	㈱ウイン・ディー、三協立山㈱ 三協アルミ社、富山スガキ㈱、㈱能作、㈱宝来社、県総合デザインセンター他
	とやまデザイン・トライアル成果発表会			
	2018/2/19	富山県のデザインに関する取組等の紹介 産学官連携事業の事例発表 （1）武蔵野美術大学×㈱二上「真鍮鋳物のプロダクト制作」 （2）富山大学芸術文化学部×㈱山田写真製版所「富山県美術館ショップの包装紙制作」 座談会「企業が求める人材像と大学の人材育成の現状」 意見交換会	発表者：田中 桂太（武蔵野美術大学 教授） 内田 和美（富山大学芸術文化学部 教授） 登壇者：田中 桂太、内田 和美、矢島 進二（日本デザイン振興会）、 桐山 登士樹（県総合デザインセンター 所長）、 岡 雄一郎（県総合デザインセンター プロジェクトリーダー） モデレーター：林口 砂里（エビファニーワークス 代表）	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（東京都港区）

	名称・日時	内容	備考	場所
5 デザイン交流事業	デザイン講習会 2017/11/15	クリエイティブ・デザイン・ハブ オープン記念イベント 「日本企業が目指すべき顧客価値イノベーション」 「21世紀の大変革、ITイノベーションの最前線から次代を予測！！」	講師：延岡 健太郎（一橋大学イノベーション研究センター長／教授） 講師：林 信行（ITジャーナリスト／㈱リボルバー 社外取締役／ダイソン財団理事）	県産業高度化センター 会議室
	ナイトフォーラム 2018/1/22 2018/3/14	イブニングサロン「次代を拓く素材・技術・用途のデザイン 」 イブニングサロン「ひとを中心にしたものづくり 」	講師：㈲ドリルデザイン（林 裕輔、安西 葉子） 講師：加藤 喜昭（アイシン・コムクルーズ㈱ 取締役社長）	県総合デザインセンター クリエイティブサロン 県総合デザインセンター クリエイティブサロン
6 デザイン普及指導事業	デザインセミナー 2017/10/6	クリエイティブ・デザイン・ハブ オープンプレイベント 「デザインとエンジニアリングで考える次の産業」	講師：名木山 景（㈱デンソー デザイン部長） 田子 學（㈱エムテド 代表取締役） 岡 雄一郎（県総合デザインセンター プロジェクトリーダー）	県産業高度化センター　会議室
	富山デザインブランド販路開拓事業 2017/10/30～11/12	「富山プロダクツの過去／現在／未来 展」他		D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY
7 デザイントレンド情報発信事業	機関誌の発行 2018/3/28	offer45号　平成29年度事業報告		
	デザイン雑誌情報	日経デザイン、AXIS、confort、ELLE DÉCOR、Casa BRUTUSなどのデザイン誌を整備し、デザインセンターライブラリーなどで閲覧するなどの情報提供を行う。		
8 越中富山お土産プロジェクト	越中富山お土産プロジェクト委員会 2017/9/21 2018/2/16	H28年度販売状況・H29年度事業計画 次期開発商品試食・検討 H29年度事業報告・新商品の決定	委員：中山 真由美（㈲ファインプロジェクト アートディレクター） 能作 幾代（nousaku店主／チーズソムリエ／一級建築士） 羽根 由（㈱生活ネット研究所 代表取締役所長） 平島 亜由美（北日本放送㈱ アナウンス部 部長） 桐山 登士樹（県総合デザインセンター 所長） 大矢 寿雄（県総合デザインセンター 顧問） 岡 雄一郎（県総合デザインセンター プロジェクトリーダー）	県総合デザインセンター プレゼンテーションルーム 県総合デザインセンター クリエイティブ・デザイン・ハブ
9 富山デザインウエーブ2017	デザインウエーブ開催委員会 2017/4/26	2016年度報告と2017年度事業計画案の承認		富山県民会館 706会議室
	富山県内デザイン・クラフト展同時期開催 2017/9/22～11/12	富山デザインウエーブ2017 工芸都市高岡2017クラフト展 高岡クラフト市場街 鋼器団地オープンファクトリー 金屋町楽市inさまのこ 富山デザインフェア2017 第57回富山県デザイン展	主催：デザインウエーブ開催委員会 主催：工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会（高岡商工会議所内） 主催：高岡クラフト市場街実行委員会（高岡商工会議所内） 主催：鋼器団地オープンファクトリー実行委員会 主催：金屋町楽市実行委員会（高岡市商業雇用課内） 主催：富山市（運営：富山デザインフェア実行委員会） 主催：（公社）富山県デザイン協会	高岡市中心市街地、 富山市中心市街地
	とやまデザイン・トライアルワークショップ2017 2017/7/28～30	武蔵野美術大学生を招いて「真鍮鋳物のプロダクト」を制作	学生：武蔵野美術大学4年生 教員：田中 桂太（武蔵野美術大学 教授） 講師：二上 利博（㈱二上 代表取締役）	県総合デザインセンター、 高岡市デザイン・工芸センター
	富山デザインコンペティション2017 2017/4/28～8/1	作品募集「道具と生活」 応募登録・作品提出		
	2017/8/8 2017/10/23	1次審査 227作品から12作品を選考 2次審査・授賞式・意見交換会 模型を使ったデザイナー12組によるプレゼンテーション・公開審査・授賞式・交流会	審査員：安積 伸（プロダクトデザイナー／法政大学教授） 川上 典李子（デザインジャーナリスト） 鈴木 マサル（テキスタイルデザイナー／東京造形大学教授） ファシリテーター：桐山 登士樹（県総合デザインセンター 所長） アドバイザー：岡 雄一郎（県総合デザインセンター プロジェクトリーダー）	国際文化会館（東京都港区） ホテルニューオータニ高岡
	セミナー 2017/11/21	「オランダのデザインと生活…価値観を探る」	講師：ナタリー・デュボワ氏（ユトレヒト・セントラルミュージアム 学芸員） 中條 永味子（MONO JAPAN デイレクター）	県産業高度化センター 会議室
	デザイン展 2017/11/13～26	企画展「新しいスキームデザイン展」 富山デザインコンペティション2017作品展 とやまデザイン・トライアルワークショップ2017作品展		県産業高度化センター 展示室
	報告書発行 2018/2/1	富山デザインウエーブ2017報告書		
	商品流通支援活動 2017/12～2018/3 2017/6/14～16	デザインコンペティションにおける授賞作品、応募作品の商品化 商品の販売開拓の強化を目的とし国際見本市へ出展 Interior Lifestyle Tokyo 2017へ出展		東京ビックサイト、JAPANSTYLEゾーン
	2017/10	Interior Lifestyle Tokyo 2018への出展申込		
10 富山プロダクツ選定事業	2017/6/15～8/29 （集中募集期間）	県内で企画、製造される品質やデザイン性に優れた工業製品の認定制度「富山プロダクツ選定商品」の公募		
	選定委員会 2017/9/5	応募（25社46点）された商品の中から14社16点を「富山プロダクツ選定商品」として選定	選定委員長：桐山 登士樹（県総合デザインセンター 所長） 選定委員：内田 和美（富山大学芸術文化学部教授）、高川 昭良（高岡市デザイン・工芸センター所長）、髙木 喜義（（公財）富山県新世紀産業機構中小企業支援センター部長）、林口 砂里（㈲エビファニーワークス代表）、茂木 新之助（㈱専通クリエート商品本部商品企画室バイヤー）、大矢 寿雄（県総合デザインセンター顧問）	県産業高度化センター　展示室
	選定証交付 2017/10/1		選定企業名：アイオーティカーボン㈱、三協立山㈱三協アルミ社、漆器くにもと、高岡漆器㈱、㈱高田製作所、（一財）富山市ガラス工芸センター、富山スガキ㈱、富山もようプロジェクト、㈱昴波商店、㈱ナガエ、㈲北辰工業所、㈲四津川製作所、㈱リッチェル	
	カタログ発行 2017/10/25	「Made in TOYAMA:TOYAMA PRODUCTS～土地と力で育った、富山プロダクツ～」		
	展示会 2017/10/26～28	「富山プロダクツ2017展」 かがやきTOYAMA逸品フェスタ in 富山県ものづくり総合見本市2017 今年度選定された16点を展示		富山テクノホール
	2017/10/30～11/12	「富山プロダクツの現在／過去／未来 展」		D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY
	常設展	富山プロダクツ常設展		県産業高度化センター 展示室
11 デザイン産業観光PR強化事業	2017/7/1～2018/3/31	展示室のPR強化に向けた企画・提案・広報業務、及び展示室見学者に対するガイドを行う	受託者：㈱能作	県産業高度化センター 展示室
12 その他	子供デザイン体験教室 2017/4/29	第17回高岡といで菜の花フェスティバル「オリジナルしおりづくり」		県産業高度化センター 展示室
	インターンシップ 2017/7/10～12 2017/8/30～9/6	県立高岡工芸高等学校　2年生2名　受入 富山大学芸術文化学部　3年生2名　受入		県総合デザインセンター 県総合デザインセンター
13 クリエイティブ・ハブ・デザイン	開所式 2017/11/15	テープカット 施設見学		県総合デザインセンター デザインオフィス ピロティ 等
	オープンセミナー 2017/11/15	「日本企業が目指すべき顧客価値イノベーション」 「21世紀の大変革、ITイノベーションの最前線から次代を予測！！」	講師：延岡 健太郎（一橋大学イノベーション研究センター長/教授） 講師：林 信行（ITジャーナリスト／㈱リボルバー 社外取締役／ダイソン財団理事）	県産業高度化センター 会議室

■発行日／2018年3月28日 ■企画・編集／オファー編集部 ■発行／総合デザインセンター 〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク5番地 TEL0766-62-0510 FAX0766-63-6830 ホームページwww.toyamadesign.jp ■編集／桐山登士樹
■編集／玄千賀子 吉田絵美 ■クリエイティブディレクター／加藤嘉一郎 ■デザイナー／水巻さゆり ■ライター／中谷裕也
■撮影／道林伸一 本田万里 ■印刷・製本／とうざわ印刷工芸株

富山生まれの、デザインのある暮らしへ
富山県内企業のデザイン性・機能性に優れた商品を紹介しています。
products.toyamadesign.jp